



忍者が伝える!

あなたの知らない(!?)

宇喜多家と岡山城

うきた



岡山城と城下町を築き、今の岡山のまちの土台を作ったのは宇喜多直家公・秀家公なんじゃ。でもどんな人物か、あまり知られておらんのだ。



関ヶ原の戦いで敗れたのち、宇喜多家の資料も失われて、直家公や秀家公のことは、よお分からなかったが、語られていない物語がたくさんあるんじゃ。



そーなんじゃ! それぞれの奥方や家族との絆もとても強かったらしいのだ。



そうじゃそうじゃ。今回はあまり知られていない宇喜多家の人たちと岡山城について、改めて調べてみよーや〜!

宇喜多家 家系図

能家

※諸説あり

興家

兒

直家

円融院

秀家

豪姫



一代で50万石
の大名に

宇喜多直家

うきた なおいえ
[1529-1582]

※1581年説もあり

岡山の礎を築いた智勇兼備の英傑

裸一貫のスタートながら、常識にとらわれない戦略で勢力を広げ、一代で備前・美作一帯を領有。また、岡山平野に目をつけ、山陽道を付け替えて城下町の基盤をつくるなど、先見性にも優れていた。



柴岡山光珍寺 旧蔵(表紙も含む)



謀略、裏切り、冷酷な梟雄きょうゆう=悪人というイメージがあるものじゃが、本当はどうじゃったんじゃ?

謀略は戦国時代では世の常。しかも直家公は、上からの命令でやったことや不確かなことも多いんじゃ。さらに、江戸時代以降の人が、当時の価値観や創作も交えて直家公を評し、悪い印象をつけてしまった。本当は、超大国の織田や毛利と渡り合い、家臣や領土を守った名将じゃ!



岡山城の天守
を築いた

宇喜多 秀家

うきた ひでいえ
[1572-1655]

忠義に生き、波乱の人生を歩んだ五大老

家督を継いだ秀家は、豊臣秀吉の養女・豪姫と結婚し、数々の戦いで秀吉の天下取りを支えた。今に残る岡山城を築き、若くして五大老に就任。関ヶ原の戦いに西軍の大將格として出陣するも敗れた。



市原寿一画 岡山城蔵(表紙も含む)

最愛の娘・豪姫を託されるほど秀吉公に見込まれた秀家公は、国内外の戦で活躍。義に厚く、豊臣方として関ヶ原で奮戦した唯一の五大老じゃ。なお、五大老の大家長として大河ドラマになっていないのも宇喜多家だけなんじゃ。



関ヶ原で敗れた秀家公は、八丈島(東京都)に流されたんじゃ。島には秀家公と豪姫が仲睦まじく並ぶ座像があり、その視線の先は岡山だといわれておるんじゃ。



個人提供

円融院

※「おふく」との
説もある

えんゆういん
[1549-没年不詳]

幼い秀家と宇喜多家 を守った強き母

直家の妻。直家逝去後、息子の秀家と家臣をまとめ、周辺の武将にもにらみを利かせるなど女城主に近い時期があった。



三善千愛画 岡山城蔵

重臣たちの家中の争いを仲裁したこともあったそうじゃ。秀吉公にも一目置かれ、影響力も大きかったんじゃ。



豪姫

ごうひめ
[1574-1634]

明治維新まで続いた 夫と子孫への思い

秀家の妻。夫を案じて始まった八丈島への仕送りは、二人の死後も実家の前田家から子孫へと続けられた。



三善千愛画 岡山城蔵

利発な豪姫は秀吉公とその正室のねねに溺愛され、秀吉公から「男だったら関白にした」とも言われたそうじゃ。



慶長5年[1600]
秀家、関ヶ原の戦いで西軍の大將格として出陣し敗戦。八丈島へ流刑となり、明暦元年(1655)年に死去。

慶長2年[1597]頃
秀家、岡山城天守を完成。その後豊臣政権下で五大老に選ばれる。

天正15年[1587]頃
秀家、豊臣秀吉最愛の養女・豪姫と結婚。秀吉の天下取りを支える。

※
天正10年[1582]
直家死去。わずか10歳の秀家が遺領を継ぐ。
※1581年説もあり

天正元年[1573]頃
直家、岡山へ居城を移し城を拡張。ここに城下町・岡山が始まる。

天文12年[1543]頃
直家、一説に流浪の少年時代を過ごしたのち、浦上宗景に仕える。

享禄2年[1529]
宇喜多直家、砥石城(現在の瀬戸内市)に生まれたとされる。

宇喜多家の歴史

岡山城を大解剖じゃ!

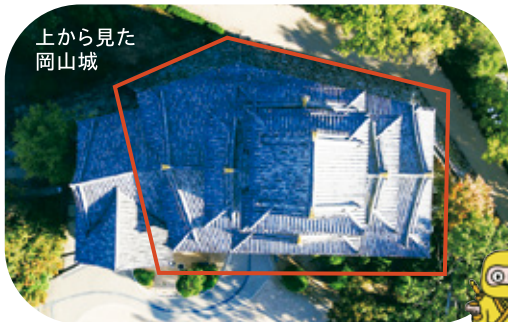


われらが守る
岡山城は
すごいじゃ!

岡山城の見所やあまり知られていない
豆知識など、幅広くご紹介します。

私が紹介
します!

学芸員
原田さん



上から見た
岡山城



全国でも珍しい 不等辺五角形の天守台

天守の石垣や1階の平面が左右非対称の不等辺五角形をしているのも特徴。土台となった地盤にあわせてためといわれています。リニューアル後のロゴにも不等辺五角形が使われているので要チェック!

うじょう 烏城と呼ばれる 漆黒の天守

外壁は黒塗りの下見板で覆われていることから、烏城と呼ばれる岡山城天守。築城400年で改修された金鯨瓦とのコントラストも必見! 最上階からは岡山後楽園や街並みが一望できます。



宇喜多直家が旭川の流域にあった岡山の丘を中心とした地域を手に入れて本拠地としたのが始まり。直家の死後、秀家は天下人秀吉の身内にふさわしい城として岡山城を築城。その後、小早川秀秋、池田氏により城と城下町が拡張された。

岡山の歴史



「戦国 宇喜多家を顕彰する会」を設立! 県内全市町村も協力!

岡山城リニューアルを機に、戦国宇喜多家の人物像を新たな視点で描いた大河ドラマを誘致することを目的に、昨年11月に「戦国 宇喜多家を顕彰する会」を発足。チーフアドバイザーに歴史学者の磯田道史さんを迎え、地元団体や、八丈町

(東京都)、金沢市(石川県)などゆかりの市町とも協力して、先人たちの魅力を発信していきます。また、今年4月には「戦国 宇喜多家の大河ドラマ誘致を応援する自治体の会」も発足し、県内の全市町村がこの活動に参画しています。



天守で光り輝く金の桃瓦

留蓋とめぶたという雨漏り防止用の瓦で、邪気を払う縁起物として金鯰きんしゃちとともに天守を守る桃瓦。岡山城天守には金色の桃瓦が8個あり、天守の中からは4つ見ることができます。



映える「天守スイーツ」!

岡山城天守にある「鳥城カフェ」は、岡山の旬のフルーツや食材を使ったメニューが評判。宇喜多家と岡山城にちなんだスイーツも人気を集めています。



(左から)「お城パフェ」1,500円、「宇喜多家パフェ」1,100円



① 案内板



岡山城は石垣の博物館!?



写真上は宇喜多秀家時代の高石垣。関ヶ原の戦い前では全国で最も高い石垣の1つ。このほか、小早川秀秋時代や池田忠雄時代など、さまざまな石垣を一度に見ることができます。



岡山のまちはここから始まった

岡山城には、まちな前の由来が隠されておる。実は昔、ここには「岡山」という名前の丘があったんじゃ。石垣の土台になっている大きな岩が「岡山」の一部じゃ! だからこのまちは岡山というんじゃ。

岡山城で待っとるよ!



◆ 岡山城天守 / 観覧時間

9時~17時30分(最終入場17時)

※イベント開催時は変更の場合あり

※定休日: 12/29~31

◆ 利用料金

区分	岡山城	岡山城 岡山後楽園
大人 15歳以上	400円 (団体料金 320円)	720円
小中学生	100円 (団体料金 80円)	—

※団体料金は20人以上 ※未就学児は無料
※詳細は「岡山城公式サイト」をご確認ください



岡山城公式サイト

「晴れっ子いいね!」
パスポートで
小学生は
入場無料に!

「宇喜多大河ドラマプロジェクト」もスタート。

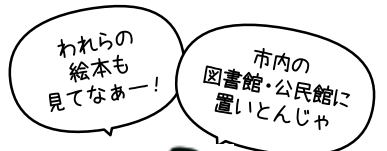
ロゴマークが完成

左記にある「われらも大河になりたいが!」のロゴマーク、何かの形に似ていませんか(ヒントは4ページの記事)。このロゴをアイコンに、今後は岡山城をはじめ、市内や県外のイベント会場でも、岡山城と宇喜多家をPRしていきます。

署名活動もスタート!

10月12日(土)10時から、「集え! 岡山城」イベントにて大河ドラマ要望署名活動を開始します。紙での署名のほか、ウェブでの署名も実施。詳細は岡山城公式HPをチェック! 皆さんもぜひ署名にご協力ください!

10月12日(土)から
スタート!



電子版は
こちら!



岡観光振興課 TEL 086-803-1332